

検 査 部

1 構 成 員

	平成15年3月31日現在
教授	0人
助教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	1人（1人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技官（教務職員を含む）	18人
その他（技術補佐員等）	6人
合 計	25人

2 教官の異動状況

堀井 俊伸（助手）（H12. 5. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成14年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	7編（1編）
そのインパクトファクターの合計	10.38
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	2編（2編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0.00

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Horii T, Mase K, Suzuki Y, Kimura T, Ohta M, Maekawa M, Kanno T, Kobayashi M: Antibacterial activities of β -lactamase inhibitors associated with morphological changes of cell wall in *Helicobacter pylori*. Helicobacter 7: 39-45. 2002.
2. Horii T, Suzuki Y, Kobayashi M: Characterization of a holin (HolNU3-1) in methicillin-resis-

tant *Staphylococcus aureus* host. FEMS Immunol Med Microbiol 34: 307-310. 2002.

3. Horii T, Morita M, Kameno Y, Kanno T, Maekawa M: Comparison of a new system (Compactdry SCD) with conventional methods for quantitative urine cultures. Lett Appl Microbiol 35: 499-503.2002.
4. Horii T, Kobayashi M: Histopathologic characterization of acute gastritis and duodenitis induced by inoculation of *Escherichia coli* O157 in mice. Microb Ecol Health Dis 14: 247-251. 2002.
5. 岩原邦宏, 泉 正和, 前川真人: 新法TRAbCT「コスミック」と従来法TRAb「コスミック」Ⅱとの比較検討. 医療と検査機器・試薬25 (6): 565-569.2002.

インパクトファクターの小計 [5.449]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Kokubo S, Horii T, Yonekawa O, Ozawa N, Mukaide M: A phylogenetic-tree analysis elucidating nosocomial transmission of hepatitis C virus in a haemodialysis unit. J Viral Hepatitis 9: 450-454.2002.
2. Kanbe T, Horii T, Arishima T, Ozeki M, Kikuchi A: PCR-based identification of pathogenic *Candida* species using primer mixes specific to *Candida* DNA topoisomerase II genes. Yeast 19: 973-989.2002.

インパクトファクターの小計 [4.931]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 石川仁子: 心筋由来、骨格筋由来の鑑別にCK/AST 比は有効か。Medical Technology 30 (9): 1021-1022. 2002.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共

同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 太田美智男, 堀井俊伸: 特集・感染症／グラム陽性細菌感染症. 現代医学 50 (1): 3-12.2002.
インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成14年度
特許取得数 (出願中含む)	2件

1. 堀井俊伸, 近藤 明, 菅野剛史, 前川真人: 黄色ブドウ球菌の検査方法 (プロテインA測定による黄色ブドウ球菌感染症の迅速検査診断法). 特願2002-339526 (出願中).
2. 堀井俊伸, 近藤 明, 菅野剛史, 前川真人: 黄色ブドウ球菌の検査方法 (DNase測定による黄色ブドウ球菌感染症の迅速検査診断法). 特願2002-339525 (出願中).

5 医学研究費取得状況

	平成14年度
(1) 文部科学省科学研究費	6件 (111万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (万円)
(4) 財団助成金	1件 (50万円)
(5) 受託研究または共同研究	2件 (75.01万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	6件 (270万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 堀井俊伸（代表者）若手研究（B）「MRSAの感染・保菌状態を鑑別するための毒素産生性の特徴を利用した活動性の評価法の確立」90万円（継続）
2. 堀井俊伸（分担者）基盤研究（C）（一般）「病院感染対策ガイドラインの策定とその有効性の検討」（継続）代表者 京都大学 一山 智
3. 堀井俊伸（分担者）基盤研究（B）（展開）「酸化LDL測定 of 動脈硬化性疾患への臨床応用に関する研究」（継続）代表者 前川真人
4. 堀井俊伸（分担者）基盤研究（C）（一般）「IVHカテーテルに関連する血流感染を低減するための感染管理対策」（継続）代表者 静岡県立大学 土井まつ子
5. 堀井俊伸（分担者）基盤研究（C）（一般）「免疫不全患者における病院内発症の難治性血流感染症防止対策法の確立」（新規）代表者 京都大学 千田一嘉
6. 浜田悦子（代表者）奨励研究「抗リン脂質抗体症候群の新たな診断方法の開発と対応抗原の検討」21万円（新規）

(4) 財団助成金

1. 堀井俊伸（代表者）（財）浜松科学技術研究振興会「臨床検体から病原真菌の検出および同定のための迅速診断法の開発」50万円（新規）

(5) 受託研究または共同研究

1. 堀井俊伸（代表者）第一製薬株式会社「第6回抗菌剤感受性年次別推移の検討」65万円（新規）
2. 堀井俊伸（代表者）住友製薬株式会社「メロペン特別調査（全国感受性調査：2002年度）」10万100円（新規）

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	1件	2件
(3) 学会座長回数	0件	2件
(4) 学会開催回数	2件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	5件
(6) 一般演題発表数	1件	

(1) 国際会議等開催・参加：

1) 国際学会・会議等の開催

1. Kaneko M：事務局長，The 3rd Cherry Blossom Symposium. Hamamatsu Japan, April 3-5, 2002.

2. Izumi M：実行委員，International Society for Enzymology Hamamatsu Meeting (Satellite Meeting of ICCS Kyoto)，Hamamatsu Japan ，October 18 ,2002.
 3. Horii T：実行委員，International Society for Enzymology Hamamatsu Meeting (Satellite Meeting of ICCS Kyoto)，Hamamatsu Japan ，October 18 ,2002.
 4. Uchiyama Y：実行委員，International Society for Enzymology Hamamatsu Meeting (Satellite Meeting of ICCS Kyoto)，Hamamatsu Japan ，October 18 ,2002.
 5. Kondo T：実行委員，International Society for Enzymology Hamamatsu Meeting (Satellite Meeting of ICCS Kyoto)，Hamamatsu Japan，October 18,2002.
 6. Kaneko M：実行委員，International Society for Enzymology Hamamatsu Meeting (Satellite Meeting of ICCS Kyoto)，Hamamatsu Japan，October 18,2002.
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
1. Horii T, Kanno T: Development of rapid diagnosis for tuberculosis. The second Kyungpook-Hamamatsu Joint Symposium (KHJS) Hamamatsu Meeting. Hamamatsu Japan, December,2002
- 4) 一般発表
ポスター発表
1. Morita M, Horii T, Suzuki Y, Ishikawa J, Muramatsu H, Kondo Y, Doi M, Takeshita A, Maekawa M: Molecular epidemiology of levofloxacin resistance in methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*. 10th International Symposium on Staphylococci and Staphylococcal Infections. Tsukuba, Japan,October,2002.
- (2) 国内学会の開催・参加
- 2) シンポジウム発表
 1. 堀井俊伸, 斉藤 崇, 尾澤法代: 微生物検査から臨床微生物検査へ：感染症症例ツアー－技師の求める患者情報，医師の求める検査情報とは－. 第14回日本臨床微生物学会総会（2003年1～2月）名古屋.
 2. 森田元喜, 堀井俊伸: 肺炎クラミジア感染症の最近の話題と検査診断法の展開：診断への新しいアプローチ①－抗原検出法－. 第14回日本臨床微生物学会総会（2003年1～2月）名古屋.
- 3) 座長をした学会名
1. 堀井俊伸 第42回日本臨床検査医学会東海・北陸支部総会
 2. 泉 正和 第21回日本臨床検査医学会東海・北陸支部例会
- 5) 役職についている学会名とその役割
1. 泉 正和 (社)静岡県臨床衛生検査技師会 常務理事
 2. 泉 正和 東海サンプリング研究会 世話人

3. 金子 誠 静岡県医師会臨床検査精度管理委員会 委員
4. 金子 誠 浜名湖カンファレンス 実行委員長
5. 金子 誠 (社)静岡県臨床衛生検査技師会 臨床検査精度管理委員会 委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

9 共同研究の実施状況

	平成14年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成14年度
産学共同研究	2件

1. 第一製薬株式会社「第6回抗菌剤感受性年次別推移の検討」
2. 住友製薬株式会社「メロペン特別調査（全国感受性調査：2002年度）」

11 受賞

石川仁子 第3回茂手木優秀演題賞 2002年 9月

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 感染症診断と感染制御（infection control）に関する研究

①感染症診断に関する研究として、病原体検出ならびに感受性試験における新しい検査法（遺伝子検査および抗原検出検査を含む）の開発をめざした研究を実施している。本年度は、肺炎クラミジアの迅速検出のための新しい検査診断法を構築するための研究ならびに学会シンポジウムの企画、黄色ブドウ球菌の病原因子をコードする *holin* 遺伝子を利用した疫学的解析手法の開発に関する研究、病原真菌の迅速診断のための遺伝子検査法の開発、新奇の検査技術であるコンパクトドライSCD法の検査診断法への応用に関する研究などを行った。

②病原因子の解析に関する研究として、動物モデルを構築し、病原性大腸菌O-157が志賀毒素の産生に関係なく胃炎ならびに十二指腸潰瘍を発症することを組織学的に証明した。

③抗菌薬療法に関する研究として、抗菌薬耐性菌の疫学的ならびに分子生物学的解析、新しい抗菌薬療法の探索に関する研究を実施している。本年度は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）のフルオロキノロン系薬耐性、緑膿菌のカルバペネム系薬およびフルオロキノロン系薬耐性、肺炎球菌のマクロライド系薬耐性に関する疫学的ならびに分子生物学的解析のほか、抗菌薬

耐性ピロリ菌の新たな抗菌薬療法の探索と特徴づけを行った。また、グラム陽性細菌感染症についての総説を共著で発表した。

④感染制御に関する研究として、病院感染対策に関する研究を実施している。本年度は、C型肝炎ウイルスの病院感染の事例解析とヘルペスウイルス感染症の全入院患者サーベイランスを実施した。

(堀井俊伸)

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道

1. The 3rd Cherry Blossom Symposium (2002) 研究室の自動化模索，静岡新聞，4月4日
医療の機械化を推進，中日新聞，4月5日